

1 中学校社会科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 公民的分野

- 改訂の要点ア～オについて再確認し、実践を進める。

ア	現代社会の特色や現代社会における文化の意義や影響に関する学習の重視
イ	現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習
ウ	現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を生かした内容構成
エ	社会の変化に対応した法や金融などに関する学習の重視
オ	課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視

〔実践事例が増え、教材や指導方法のノウハウが蓄積されてきている。〕

〔イで養った「対立と合意」「効率と公正」等の見方・考え方を大項目(2)、(3)、(4)アにおける学習活動で活用することが大切である。〕

- 公民的分野の目標の達成は、中学校社会科の目標の達成につながり、円滑な学習指導要領の実施にもつながることになる。
- 選挙権年齢が引下げられることになったが、高等学校の教育課程によっては、中学校3年生の学習を終えたところで、実際に投票することになる生徒が出ることに留意する。  
義務教育では、基礎的・基本的な民主主義に関する考え方、政治参加の在り方について考察することや法の意義、憲法の最高法規性などの基礎的・基本的な知識・概念を身に付けさせることが一層重要になる。模擬投票やディベート等の学習活動が効果的である。

(2) 地理的分野

- 地誌学習においては、主に習得に関わる中項目ア・イで獲得した知識等を、中項目「ウ日本の諸地域」において活用して動態地誌的な学習を展開することが大切である。

地誌学習の定着がまだ十分とは言えない現状であり、知識注入型の指導にならないよう留意することが求められる。

学習の概要	(1) 世界	地誌学習の蓄積	(2) 日本
第1 ア 地域構成 (座標軸)	緯度や経度、 国の位置等把握	習得・活用・ 探究の流れ	位置や領域、地 域区分等把握
第2 イ 大観学習	生活や環境の 多様性を理解		自然、人口、資 源等を大観
第3 ウ 諸地域学習 (地誌学習)	州ごとに主題 地域性を把握		地方ごとに7つ の視点で考察
第3 エ 調べ学習	調査学習の視点 や方法を習得		身近な地域の課 題⇒社会参画

図1 中学校における「地誌学習」の位置付け

- 生徒の理解を進めるために、世界の諸地域、日本の諸地域学習の履修順を見直す必要がある。教科書の記載順にとらわれないようにし、各地方の実情や生徒の実態に即した履修順を検討して、実践を積み重ねることが大切である。
- 全国の高校入試問題は、個別の知識を問う問題から概念的な知識を問う問題が多くなってきている。(地理オリンピックの問題に近くなってきている。) 動態地誌的な学習を終えた生徒にどのような力を育成できるかという視点を持つことが大切である。

② 知識事項の蓄積から得られた概念(機能地域内での景観変化の規則性や傾向性)を問う問題

右の図は仮定の都市Xの都市圏を中心とする地域の現在の様子を表したものである。

次のア～ウは、地図中の都市Xから都市Zに向かって移動する途中に見られる、特徴的な景観について述べたものである。ア～ウを、都心に近い順に並べ、その記号を書け。地図中の土地利用の記号は、地形図のきまりによる。

ア 稲作を行う農地に囲まれた、敷地面積の広い個人住宅が点在している。 ③  
 イ きゅうりやトマトなどをつくる農地や住宅地が広がっている。 ②  
 ウ 高層建築物の間に、ほうれん草やねぎなどをつくる農地が点在している。 ①

図2 H県 H12 年高校入試問題

③ 知識事項の蓄積から得られた概念(産業別の地代についての費用対効果則の規則性や傾向性)を問う問題

The Bid Rent Theory states that rent or land values decrease with the distance from the central business district (CBD). In the diagram, what type of land use does LINE 1 represent?

A. agricultural 農業  
 B. industrial 工業  
 C. residential 住宅  
 D. retail 小売り

Q.39

図3 地理オリンピック・ポーランド大会問題

- ・ 高等学校においては地理が選択教科となるため、地理（地誌学習）を学習する機会が中学校が最後となる生徒もいることを再確認して指導に当たることが大切である。
- ・ 平成元年度から地域を取り上げることに軽重を持たせており、この流れは世界の地誌学習の流れでもある。地理教育国際憲章やルツェルン宣言等を踏まえて学習指導要領の改訂をしている。（ルツェルン宣言を踏まえて地理や公民、理科にESDの視点が盛り込まれたことにも留意する。）

(3) 歴史的分野

- ・ 学習指導要領を確認して指導することが大切である。全ての中項目で共通に「○○，○○などを通して，AがBであったことを理解させる」と示しているのは，理解すべき学習の焦点を明確にしているからである。記憶させると示していないことを再確認して指導することが必要である。
- ・ 「各時代の特色をとらえる学習」については周知されてきたので，深まりと広まりを考慮して指導を進める必要がある。
- ・ 何のために「各時代の特色をとらえる学習」をしているのかという理解が必要である。時代の特色を捉えることが目的になっていないか振り返り，我が国の歴史の大きな流れを理解させることが歴史的分野の目標であることを確認する必要がある。

2 行政説明

(1) 公職選挙法等の一部を改正する法律について

- ・ 選挙権年齢等の18歳への引下げにより，来年度から現在の高校2年生から投票できることになったため，高等学校での指導の充実と工夫が求められている。
- ・ 高等学校で使用するための選挙に関わる副教材と指導資料を作成中である。
- ・ 国会での法案審議の過程において，小中学校における教育の充実が必要という意見が出たことを踏まえ，特に中学校での該当箇所の指導について工夫と充実が求められる。

(2) マイナンバー制の導入について

- ・ 社会保障・税・災害対策の手続きの効率化を意図して導入されるものであり，授業で直接扱うというものではないが，普及啓発を含めて，関連する内容で指導してほしい。

3 育成すべき資質・能力について

- ・ 児童・生徒に育成すべき資質・能力は高校修了時の姿を見据えていることを理解し，学習評価の規準が「何を知っているか」から「何ができるようになるか」という点が求められていることに留意する。
- ・ 学習評価は次の段階に進むためのものであり，指導の改善に活用するものである。
- ・ アクティブ・ラーニングは能動的・協同的学習の総括的な言い方であり，言語活動の充実やグループ学習・ペア学習も含まれる。
- ・ 現時点では，アクティブ・ラーニングの考え方に左右されないように留意し，現行の学習指導要領を実践し，目標を実現するための努力を続けることが大切である。

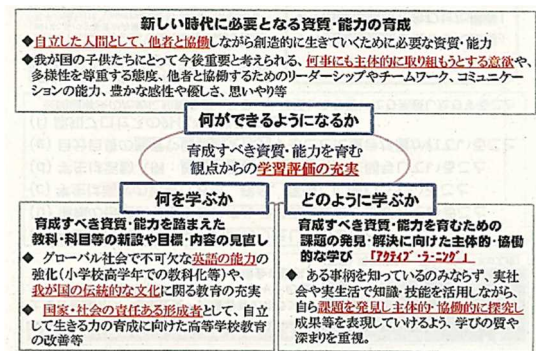


図4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けた教育課程の構造化（イメージ）